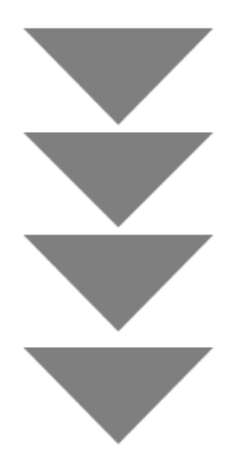


県立神戸高塚高等学校 ボランティア部

ボランティア部の設立の経緯

○ ～2021年3月まで



【当時の活動状況】

- ・学校のボランティア活動は、**イベント事の開催があるときのみ**参加を募っていた。
- ・ボランティア活動を**日常的に活動していなかった**。

【課題】

全生徒・全教員を対象にしており、**主として活動する生徒がいなかったため、ボランティア部の存在が知られてなかった**。

○ 生徒から要望の声が出る

学校外のボランティア団体「Asuloa」で活動している生徒が主体となり、
学校で**ボランティア部設立の計画**を立てる。

「校内にボランティア部があれば入部したのになぁ」という生徒の声

ボランティア部があれば、高塚高校の入学を希望する中学生へアピールできる

○ **2022年4月** ボランティア部 **活動開始**

活動内容

- ・ **防災新聞**の発行 配布先：**学校説明会へと参加した中学生・保護者**
- ・ **防災避難訓練**（12月予定）での啓発活動
- ・ 学校周辺の**清掃活動**
- ・ **古着回収** 寄付先：**NPO法人 FREE HELP**
- ・ 文化祭での**リサイクルショップ**の運営 寄付先：**計画中**
- ・ 学校説明会での部の**活動紹介**
- ・ **絵本の読み聞かせ**（2月予定）
- ・ **古靴回収**（2月末予定）

2022年11月発行
ボランティア部
高塚防災新聞
—Takatuka bousai shinbun—

『世界津波の日』

みなさんは十一月五日が何の日かご存知ですか？
この十一月五日というのは「世界津波の日」と定められていますが、これは江戸時代末期、和歌山県で起きた大地震の際のことである「稲むらの火」に由来します。

「稲むらの火」とは広村に住む五兵衛というおじいさんが村の人達に危険を知らせるために、米の付いた稲むらに火をつけ、それに気付いた村の人達が高台に上ったことにより、五兵衛さんが救ったという実話です。

そこで今回は皆さんに改めて「津波の恐ろしさ」について紹介したいと思います。

兵庫県は安全？

兵庫県に住む皆さんにとって「地震」という言葉は馴染みがあっても「津波」という言葉には馴染みがないと思います。私も小学校の頃から阪神・淡路大震災などの地震関連の事はよく勉強しましたが、津波についてはあまり教わらなかったように思います。

しかし次に予想されている「南海トラフ地震」では、神戸の街にも津波の到達が予測されているとご存知でしょうか？皆さんはよしみえなどに遊びに出かけていませんか？しかしハザードマップ（左上によると南海トラフ地震ではハーバーランド一帯は水に浸かるという）ことが予測されています。

「自分は津波に関係ない所に住んでいるから大丈夫。」そう思っていたとしても遊びに行っている時に災害が発生しないとはかぎりません。

もし遊びに行っている時に地震が起きたら「自分は大丈夫。」と慢心しないでください。

ハザードマップって何？

ハザードマップとはその地区で起こる災害の予想避難場所を表した図のことを示します。左の写真は神戸高塚高校近辺のハザードマップです。これによると神戸高塚高校近辺は危険度が低いということが分かります。また神戸高塚高校は避難所に指定されていないため、食料の備蓄がありません。

そのため災害が起きた時の対応が難しいと言えます。

このように自分の住んでいる地域のハザードマップを確認してみてもいいでしょうか。

今後の予定

- ・ 2022年12月 **防災避難訓練**での啓発活動
防災新聞の発行・防災HR 配布：神戸高塚高校**生徒**
- ・ 2023年2月頃 **絵本の読み聞かせ**
開催先：**コープ共済が運営するフリースペース**
- ・ 2023年卒業式 **古靴回収** 寄付先：**NPO法人 FREE HELP**

卒業までの目標

多くの部員にボランティア部の活動を知ってもらい、
部員を集めボランティア部を**継続させること**

課題

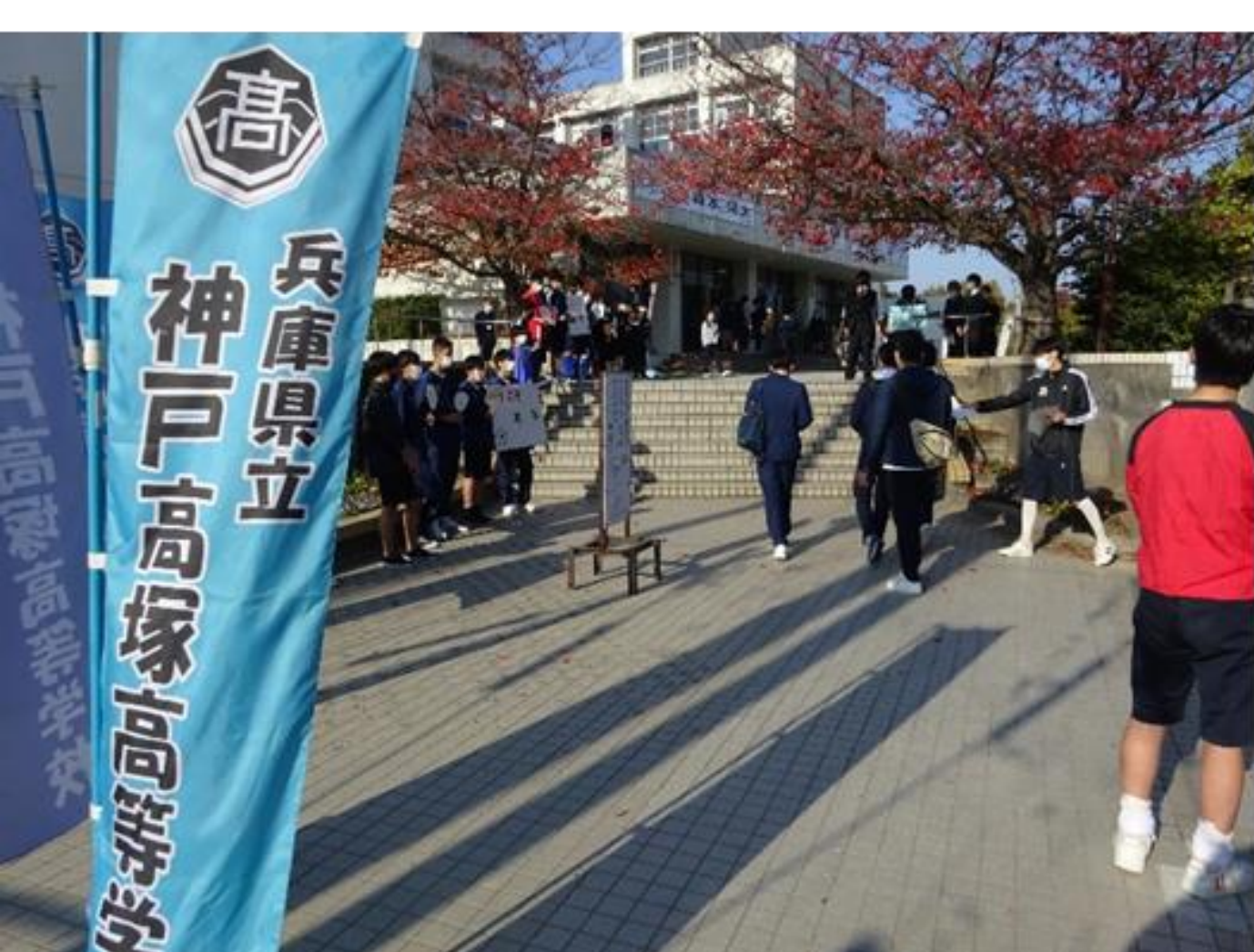
- **年間計画を立てる**
防災避難訓練（6月実施）・心肺蘇生法（生徒・教員対象）などの機会を利用して防災新聞やポスターを発行して、**啓発活動の取り組みを強めること**
- **部員を集める**
これまでの**活動や思いを伝承**し、継続して取り組めるよう**後輩を育む**。



学校周辺の清掃活動



文化祭



学校説明会
防災新聞の配布



学校説明会
ボランティア部の活動紹介



防災避難訓練

